

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	インターンシップ
科目基礎情報						
科目番号	0216		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械システム工学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	インターンシップ実施要項					
担当教員	柴田 博司					
到達目標						
1. 社会人として必要なマナー、常識、自主性等を持つことができる。 2. 実習内容を習得し、協調性を身に付けることができる。 3. 実習日誌の作成を通して報告書をまとめ、発表することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	社会人として必要なマナー、常識、自主性を適切に身につけることができる。		社会人として必要なマナー、常識、自主性等の基本を身に付けることができる。		社会人として必要なマナー、常識、自主正等を身に付けることができない。	
評価項目2	実習内容を習得し、協調性を適正に身に付けることができる。		実習内容を習得し、基本的な協調性を身に付けることができる。		実習内容を習得できず、協調性を身に付けることができない。	
評価項目3	実習日誌の作成を通して報告書を適正にまとめ、わかりやすく発表することができる。		実習日誌の作成により報告書をまとめ発表することができる。		実習日誌の作成ができず、報告書の作成、発表ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	県内外の企業、大学等において、夏季休業中に実習を行う。これにより社会人としてのマナー、教養等を養うとともに、自分の専門としている学問と企業現場等との関連性に理解を深める。					
授業の進め方・方法	学内において、インターンシップマナー講座を実施する。その後、学外諸機関において実習を行う。実習中は、毎日実習日誌を作成する。インターンシップ終了後は、報告書を作成、提出する。報告書の内容等を確認し、専門課程の一貫として1単位（1週間以上にわたり、実習期間5日間以上）または2単位（2週間以上にわたり、実習期間10日間以上）を認定する。					
注意点	・企業等における社内規律等に従うこと。 ・社内機密に十分注意すること。 ・安全保持、作業態度に注意し、実習指導者の指示に従うこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	インターンシップ説明会の実施		インターンシップに際しての手続き等を説明する。	
		2週	インターンシップ先の申請		履修希望学生は、実習希望先企業、大学等を選定し、履修願いを学務課に提出する。	
		3週	インターンシップ先の調整作業		受け入れ企業等と調整作業を行う。	
		4週	インターンシップマナー講座の実施		講座を受講することにより基本的なマナーを身に付ける。	
		5週	インターンシップ先の決定		インターンシップ先が決定したら、企業等に挨拶を兼ねて連絡する。	
		6週	実習実施：1週間（実質5日間）～2週間（実質10日間）		実習先で実習実施	
		7週	インターンシップ終了後、報告書を作成し提出する。			
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				

		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	専門的能力の実質化	インターンシップ	インターンシップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	3	前6
				企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	3	前6
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	3	前6
				企業における社会的責任を理解できる。	3	前6
				企業活動が国内外で他社(他者) とどのような関係性を持つかを理解できる。	3	前6
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	3	前6
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	3	前6
				コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	3	前6
				実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	3	前6
				社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。	3	前6
				実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	3	前6

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	報告書	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	100	100